

小規模修繕工事特記仕様書

第 1 節 総 則

第 1 条 適用

- 1 . この仕様書は、市が発注する小規模修繕工事（以下「工事」という。）の施工に関し適用する。
- 2 . 受注者は、休日・夜間においても常に連絡のとれる態勢を築き、発注者の指示に基づき速やかに対応するものとする。

第 2 条 現場写真

現場写真は、施工の場所及び出来形が判別できるものとし、同一位置から工事の着手及び完成後撮影したものを工事完成届に添付して提出するものとする。

第 3 条 検収単位

検収単位は、別表単価表の検収単位とし、直近以下は四捨五入とする。ただし、工事指示書による 1 回当りの数量が検収単位に満たないときは、検収単位に切り上げるものとする。

第 4 条 標示板

「三重県公共工事共通仕様書」内「道路工事現場における標示施設等の設置基準」による。

（ 道 路 関 係 ）

第 2 節 排水施設工

第 5 条 側溝工

- 1 . 接続部分の漏水及び排水勾配等に十分注意し、施工しなければならない。
- 2 . 道路側の埋戻しには、良質な埋戻し土もしくは再生クラッシャ - ラン（ R C - 4 0 ）を使用し、タンパ（ 6 0 ～ 1 0 0 K g ）により十分締め固めたうえで、舗装しなければならない。

第 6 条 コンクリ - ト溝蓋工

- 1 . 「国土交通省、土木構造物標準設計」による P C 1 型、P C 2 型、C 1 型、C 2 型、K 1 A 型、J I S 1 種型、J I S 3 種型を標準としリサイクル製品の使用に努めるものとする。
- 2 . なお、現場条件等によっては、同等品以上の製品を使用できるものとする。

第7条 縞鋼板溝蓋工

- 1．縞鋼板溝蓋を布設する場合は、適当な大きさに加工して布設しなければならない。（蓋の本体単価及び重量は見積とする。）
- 2．縞鋼板溝蓋をボルト固定する場合は、歩行者等の通行の妨げにならないよう加工しなければならない。

第8条 グレ－チング溝蓋工

- 1．グレ－チング溝蓋を布設する場合は、所定のアンカ－・鎖等により固定しなければならない。
- 2．車道部の規格はT－25型を標準とするが、監督職員の指示がある場合はその限りではない。

第9条 管渠工

- 1．管渠を設置する場合は、道路土工カルバート工指針記載のものを標準とするが、監督職員の指示がある場合は、この限りではない。
- 2．管渠が浅層埋設となる場合は、その埋設方法について監督職員と協議すること。

第10条 清掃工

- 1．土砂は底版が見える程度に除去し、速やかに処理しなければならない。
- 2．溝蓋の取り外し又は布設にあたっては、損傷を与えないよう十分注意し、がたつき、段差及びすき間のないようにしなければならない。

第3節 交通安全施設工

第11条 歩車道境界ブロック工、歩道部切り下げ工、防護柵工

施工にあたっては、舗装部に支障を及ぼさないよう十分注意しなければならない。

第12条 視線誘導標工

- 1．建込角度等安全かつ十分な誘導効果が得られるよう施工しなければならない。
- 2．支柱を打込む場合は、支柱の傾きに注意するとともに、頭部に損傷を与えないようにしなければならない。

第13条 道路標識補修工

- 1．標識板の向き、角度、標識板と支柱の通り、傾斜、支柱上端のキャップの有無に注意して施工しなければならない。

第4節 その他施設工

第14条 標識清掃工

- 1．標識及び支柱に付着しているほこりを布などで清掃しなければならない。

第15条 路面清掃工

1. 収集した塵埃は柵及び側溝等に掃き込まないように注意しなければならない。

第16条 土工

1. 埋戻しについては、埋戻し箇所の残材、廃物、木くず等を撤去し、タンパ(60～100kg)により、一層の仕上り厚20cm以下を基本として、十分締め固めなければならない。

第17条 芝付工

1. 筋芝工、張芝工は法肩には耳芝を施すものとする。

第18条 取壊し工

1. 構造物の取壊しは他の部分を損傷させないように十分注意しなければならない。
2. アスファルト舗装は、アスファルトカッターで切断後、取り壊すものとする。

第19条 構造物基礎工

1. 砕石基礎工の材料は、再生クラッシャーラン(RC-40)又は、栗石を標準とする。材料の選択は監督職員の指示を受けなければならない。
2. 均しコンクリート基礎工に使用するコンクリートについては、三重県公共工事共通仕様書第1編第5章無筋、鉄筋コンクリートの配合によるものとする。

第20条 コンクリート工及び型枠工

1. 構造物の打継ぎ面は、十分洗浄し打設しなければならない。
2. 使用するコンクリートについては、三重県公共工事共通仕様書第1編第5章無筋、鉄筋コンクリートの配合によるものとする。

第21条 道路除草工

1. 除草は刈残しのないように行うものとし、交通等に支障のないように処理しなければならない。また、その処分については、受注者の責任において堆肥化等、リサイクルを行うことにより適正に処分すること。

第22条 土のう積

1. 土のう積は、現地の状況等により側面並べ、小口並べを使い分ける。

第23条 現場打合せ確認協議 交通誘導警備員

1. 打合せ確認協議メモは、監督職員に提出する。

第24条 雑工

1. 工事終了後は速やかに監督職員に作業日報を提出すること。

（ 河 川 関 係 ）

第 5 節

第25条 河川除草工

1. 除草は刈残しのないように行うものとし、河川管理施設の支障とならないように処理しなければならない。また、その処分については、受注者の責任において堆肥化等、リサイクルを行うことにより適正に処分すること。

第26条 天端補修工

1. 堤防天端の窪地については、堤防に適した良質土にて補充を行ない敷均し、転圧を行なわなければならない。
2. 堤防天端が、コンクリートとなっている場合の補修については、堤体が空洞となっていないか確認し、空洞があれば堤防に適した良質土にて補充を行ない敷均し転圧を行なった後、張コンクリート厚20cm以上で在来コンクリート厚に合わせて補修を行なわなければならない。
3. 堤防天端及び空洞化部分の補修に使用する補足土については、監督職員と協議すること。

第27条 土砂取り除き

1. 堆積土砂の排除については、河川管理施設等の支障とならないよう十分注意をして行なわなければならない。

第28条 構造物補修工

1. 目地の充填を行なう場合は石、ゴミ等を除き、充填材の使用条件を満たしたうえで、作業を行なわなければならない。

（ 舗 装 関 係 ）

第29条 アスファルト合材の品質

工事に使用する加熱アスファルト合材の品質は次のとおりとする。

区 分	針入度	標準再生 アスファルト量	交通量 区分	混合物の 最大粒径
再生密粒度As	40～60	5％～7％	N1～N5	13mm
再生密粒度As	40～60	5％～7％	N6,N7	20mm
再生粗粒度As	40～60	4.5％～6％		20mm
再生細粒度As	40～60	6％～8％		13mm

アスファルト混合物の締固め後密度（単位：kg/m³）

混合物	車道・路肩	耐水処理	歩道
粗粒度As	2.350	2.200	2.200
密粒度As	2.350	2.200	2.200
細粒度As	2.300	2.150	2.150

第30条 検収数量

検収数量は別表単価表のとおりとし、直近以下は四捨五入とする。ただし、指示書による1回当りの数量が検収単位に満たないときは検収単位に切り上げるものとする。重量にて検収する場合は事前に監督職員と協議を行うこと。

第6節 コンクリート舗装補修

第31条 目地等填充工

目地填充工及び亀裂填充工

1. 目地及び亀裂の填充を行うときは、古い目地材、石、ごみ等を除去し、清掃後プライマーを塗布するものとする。
2. 目地材は加熱して填充し、填充後石粉を散布しなければならない。
3. 目地板の上に注入目地材を施工してあるものはその部分を除去するものとし目地板のみで施工してあるものは3cm程度削り取らなければならない。
4. 填充できる亀裂はすべて填充し、填充できない亀裂については監督職員と協議し、施工するものとする。

第7節 アスファルト舗装補修

第32条 局部の打換

舗装工

1. 打換部分の形状は、二辺が原則として道路中心線に平行となる長方形とし、一辺の長さは、1.5m以上とする。ただし、打換部分と舗装端との間が0.5m以下の場合は舗装端まで打換えなければならない。
2. 打換部はアスファルトカッターで切断した後、取壊しするものとする。
打換にあたっては隣接する舗装版、路盤に悪影響のないよう注意して施工しなければならない。
3. 一層の仕上げ厚は原則として7cmを越えてはならない。
4. 表層厚が5cmを越えるときは基層厚として加熱アスファルト合材(粗粒度)を施工するものとする。ただし、前項の範囲内のときはこの限りではない。
5. 転圧は振動ローラーにより規定の締固度まで施工するものとする。

なお、隅角部及び縁部は、特に入念に転圧しなければならない。

路盤工

- 1．路盤を入れ換えるときは、隣接する路盤をゆるめないよう注意して施工しなければならない。
- 2．路盤材は所定の厚さに敷きなおし振動ローラーにより規定の締固度まで転圧し、平坦に仕上げるものとする。
- 3．仕上げ厚は10cm、15cm、20cmの3区分とし、現場の状況により監督職員と協議して施工するものとする。
- 4．路盤材は粒度調整碎石(M - 30)又は再生碎石(RC - 40)で、品質は「三重県公共工事共通仕様書」の定めるところによるものとする。

第33条 表面の処理

- 1．段差が3 cm以下のときは、短時間硬化の常温スラリー状混合物で段差修正を行うものとする。
- 2．段差が3 cm以上のときは、再生細粒度アスファルト混合物(13)で段差修正するものとする。
- 3．表面処理は次の2つに区分する。
表面処理工(A)は厚さ3 cm以下の箇所に適用する。
表面処理工(B)は厚さ4 ~ 5 cmの箇所に適用する。
- 4．路面の沈下等进行处理するときは既設路面を清掃したうえ、タックコートを入念に散布し、既設舗装面と平坦性を保つよう加熱アスファルト合材(密粒度)を敷きならすものとする。
- 5．表層厚が5 cmを越えるときは基層工として加熱アスファルト合材(粗粒度)を施工するものとする。ただし、基層工の施工が困難と認めたときは監督職員と協議して施工するものとする。
- 6．施工幅が1.0m以上のときは振動ローラーにより、1.0m未満のときはタンパにより十分転圧して仕上げるものとする。

第34条 ポットホールの処理

- 1．欠損部補修工(ポットホール)の処理は加熱合材を原則とし、穴埋め後タンパ仕上げにより施工するものとする。
- 2．ポットホールは、遊離したもの、動くものを除去し原則として正方形又は長方形かつ垂直にツルハシ等で整形しなければならない。
- 3．整形後、タックコートを入念に散布し、加熱アスファルト合材(密粒度)で穴埋め後、既設舗装面と平坦性を保つようタンパ仕上げを行うものとする。

第35条 既設舗装面との処理

- 1．成形目地テープを使用する場合は、既設舗装側面を刷毛等で清掃し、接着剤を塗布後テープ貼付圧着させる。
- 2．表面処理工に伴う既設舗装面との摺り付けについては、段差にならないよう十分注意す

る。

第 8 節 その他

第36条 歩道用コンクリートブロック補修工

- 1 . コンクリートブロックの凸凹、がたつき等の補修は既設ブロックを取外し、路盤が平坦となるよう砂を敷きならした後、ブロックを敷設するものとする。
- 2 . 布設後は路面を清掃しなければならない。

第37条 取壊し工

- 1 . 構造物の取壊しは他の部分を損傷させないように十分に注意しなければならない。
- 2 . アスファルト舗装は、アスファルトカッターで切断後、取壊すものとする。

第38条 雑工

- 1 . 業務終了後は速やかに、監督職員に作業日誌を提出すること。

（ 雪 氷 関 係 ）

第 9 節 準備

第39条 積雪・凍結箇所図作成

- 1 . 受注者は、工事を受けた地域の積雪、凍結箇所について発注者と打ち合わせ、箇所図を作成し一部発注者に提出しなければならない。
- 2 . 発注者は、前項により作業の箇所または路線を指示しなければならない。

第40条 体制の整備

受注者は、天気予報、気象状況に十分注意し、出勤を必要と予想される場合は早朝、夜間にかかわらず準備し、直ちに出勤できる体制をとらなければならない。

第 1 0 節 薬剤

第41条 薬剤の支給

- 1 . 薬剤は、あらかじめ必要見込量を受理するか、必要時に受理するか発注者・受注者打合せをしなければならない。
- 2 . 発注者は、支給した薬剤量を材料受払調書へ記載しなければならない。

第 1 1 節 準備体制

第42条 道路巡視

受注者は、巡視を行い速やかに予備散布、除雪等の作業指示を受けるため状況報告をしなければならない。

第 1 2 節 除雪及び凍結防止作業

第43条 道路巡視

- 1 . 受注者は、前条の報告により薬剤散布する場合は、夜間、早朝及び気象等の悪条件での作業になるため交通安全と撒きすぎ（特に連続散布時）に注意しなければならない。
- 2 . 受注者は、作業に用いた薬剤量、作業時間を速やかに報告しなければならない。

第 1 3 節 編成人員

第44条 作業編成人員

- 1 . 各作業による標準編成人員は別表のとおりとする。

別表 雪氷対策作業標準編成人員

	普通作業員	一般運転手	特殊運転手	計
凍結防止剤 配備及び撤収	2	1		3
道路巡視	1	1		2
（人力） 凍結防止剤散布	3	1		4
（機械） 凍結防止剤散布	2	1		3
機械除雪	1		1	2

（その他）小規模維持工事全体

第45条 その他

- 1 . 本契約に類似、または相当の工種については、三重県積算基準等を基にした適正な精算または適正な見積等より金額を決定し指示する。